

令和6年度第2回沖縄県内SDGsアドバイザーボード会議に係る
ご意見の照会について

参考資料 1

No	委員	ご意見 (モニタリング等に対してのご意見について)	事務局対応案
1	蟹江委員	目標ごとの達成度を視覚化して示すなど、とても良いモニタリング手法を持っていると思います。特に素晴らしいのは、おきなわSDGsアクションプランの優先課題ごとの進捗計測をしている点です。むしろこちらを前にもって来ることが良いのではないかと思います。むしろ17目標ごとの評価よりもこちらの方が価値があるように思います。	モニタリング報告書は、今後、アクションプランで掲げる12の優先課題を前面に記載した形でのとりまとめを考えております。
2	蟹江委員	報告書はぜひ英訳して国際的に提示していくべきだと感じます。国際的にみても素晴らしいものだと思います。また、ホームページも同様に充実させていくと良いと思います。ハワイなどもローカルSDGを推進していますが、そうしたところとこれをもとに交流をされると、より良いアクションや提案が出てくるものと思います。	英訳につきましては、今後、検討します。
3	蟹江委員	今後、ステークホルダーによる評価や専門家による評価など、定性的な活動報告や評価も行くと良いと思います。前者に関しては、日本政府のVNRでも入れていますので、参考になるかと思いますが。後者は、研究者を中心に何年かに一度でも良いので、定性的な評価を入れると良いと思います。	次年度、サマリーの中で定性的な評価を考えております。評価にあたっては、日本政府のVNRも参考にします。
4	北村委員	沖縄としてのモニタリングに積極的に取り組むことは、とても大切なことであり、素晴らしいと思います。それと同時に、あまり数値目標やデータにこだわり過ぎず、持続可能な社会の実現に向けて沖縄の人々がどのような努力を積み重ねているのかを、積極的に評価していくことも大事だと考えます。	次年度、サマリーの中で定性的な評価を含め、SDGsの進捗状況を分析・評価を考えております。また、県民にSDGsの取り組みを分かりやすく発信し、多様なステークホルダーと連携し更なるSDGsの展開に繋げていきたいと考えております。
5	北村委員	1のコメントを踏まえたうえで、定量的な評価に加えて、定性的な評価やGood Practicesのショーケース化などを通して、多様な取り組みの成果をさらに発信していくことを期待しています。	
6	北村委員	また、定量的な評価に関しても、その評価方法はさらに検討の余地があるようにも思います。すべてのデータをしっかりと理解したうえでのコメントではなく申し訳ありませんが、数値目標の到達度は往々にして初期段階では目覚ましい進捗が見られがちであるのに対して、状況が改善されてくると改善の余地が少なくなるため、必ずしも数値的には大きな変化が見られなくなることもありますので、すでにそういったことも踏まえて評価をされているかもしれませんが、丁寧な分析が必要だと思います。	
7	北村委員	17の目標の進捗について、個別に見ることも大切ですが、SDGsの目標は相互に関連し合っているため、一つ一つの目標にとらわれ過ぎず、目標横断的あるいは複数の目標に関連した成果を評価するという視点も重要だと考えます。	
8	北村委員	SDGsの進捗をモニタリング・評価するだけではなく、2030年が近づいてきた現在、その先を見据えた社会のあり方について議論することが非常に重要だと思います。ポスト2030の議論を、沖縄ならではの視点から積み重ねて行くことを期待していますし、微力ながら私も少しでも貢献できればと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。	

No	委員	ご意見 (モニタリング等に対してのご意見について)	事務局対応案
9	佐野委員	【第4章1(2) 17のゴールごとの各指標の状況等】いくつかの指標（ゴール1、7、9、10）の状況説明において、「引き続き、多様なセクターによる取組を継続・促進していくことが必要」との記載があります。 以前もこの点について意見を述べたので繰返しになりますが、確かに、相互に、複合的に取組の成果が発現することが求められるとはいえ、「多様なセクター」の一言で済ませている、雑なまとめ方をしている、というふうに見えてしまいます。 実際の取組の事例から一つ、二つピックアップし、例示するだけでも、どういった努力がなされてきたのか・継続しようとしているのか、読み手に理解されやすいのではないのでしょうか。（一例として、p.12 ゴール1 「経済的理由による中途退学者数（国公立高等学校）」について。全くの想像ですが、奨学金制度の充実に加え、親や子どもが公的・民間サービスに関する情報にアクセスしやすくするといったことが取組として想定されるならば、そういった具体的なことを書いた方がよいと思います。）	指標の状況説明について、読み手に理解しやすい表現を検討します。
10	佐野委員	【第4章1(2) 17のゴールごとの各指標の状況等】全国値が絶対的な、あるいは最重要の基準値ではないと認識していますが、全国値と比較して沖縄県の現状値が著しく低い指標については、できるかぎり丁寧に（詳細に）、なぜ乖離が生じているのか、背景・理由を示し、今後どのような取組を行っていくかを示すといひではないのでしょうか。 現在の記載でも、その点が意識されているとは思いますが、背景や今後の取組について全く言及のない指標もあります（ゴール5「女性の大学等進学率」、ゴール12「人口1,000人当たり産業廃棄物の不法投棄、ゴール16「学校での暴力行為発生件数（1,000人当たり）」等）。 特にこれらは、実施指針に明記した「変えていくべき沖縄」の部分として、沖縄県のSDGs推進の取組においてとても重要な指標であることが多いように思われました。今後の実効性ある取組に繋げていけるよう、専門部会で議論を深めていただき、可能な範囲でモニタリング報告書でも議論の一部なりご紹介いただくのが、望ましいと思いました。	モニタリング報告書は、県内のSDGsの状況を共有することが趣旨となっており、現時点では進捗状況の説明になっております。次年度に実施するサマリーにおいて分析・評価、課題の整理を行い、実効性のある取り組みに繋がれるよう専門部会でも議論し、アクションプランの改定も踏まえ考えてまいります。
11	佐野委員	【第4章2(2) 優先課題ごとの状況】当該課題における複数の目標達成を測定する指標について、個々の説明が並列的であり、「これらの指標の状況から、この優先課題について、現状をこのように捉えています」という総括的な考察・分析がないのは、もったいないと思いました。 例えば、優先課題①（p.45-p.47）では、障がいに関する状況は、実雇用率が全国1位になる等、素晴らしい取組がなされていますが、性別に基づく地位の不平等や性の多様性の理解促進への取組等は、これに比べてまだまだ、といった印象を受けます。 SDGsゴールで見れば別々のことを、沖縄の優先課題という見方では、一つにまとめて「違いを認め合い、一人ひとりが大切にされる、活躍できる社会」をしたことに立ち戻れば、個々の測定結果を並列的に報告するだけではなく、課題としての達成度はどうか、という総括的な記述がより重要ではないかと思ひます。	優先課題の総括的な分析につきましては、サマリーで検討しております。サマリーでは、分析・評価を踏まえ、課題を整理し今後のアクションに繋げていくことを想定しております。

No	委員	ご意見 (モニタリング等に対してのご意見について)	事務局対応案
12	佐野委員	【第5章 沖縄県内のSDGs活動状況】素晴らしい取組がなされていると思いました。一方で、交流会・セミナー等の開催（p. 70-72）のうち、沖縄県が実施する県民参加型イベント「みんなでSDGs！」の5つの個別イベントについて、イベントによって参加人数の差が大きいのが気になりました。 人数が全てではないと思いますが、イベント開催の目的が一定程度達成されているのか、あるいは、今後の類似のイベント開催に向けて課題・教訓となるものがあったのか、会合の場で県側から補足説明を頂けるとありがたいです。	「みんなでSDGs！」については、パートナー登録企業・団体等が中心となって様々な取組を実施するイベントであり、新たな取組の創出と県民参加を主な目的としています。 今年度はイベント数が昨年度の3件から5件に増加したほか、新たな試みとして各取組企画への学生の参画を行いました。 課題としては、個別イベント主催者の負担が大きいことからイベント数が伸びなかったこと、学生側の積極的な意見をうまく引き出せなかったことなどがあり、こうした点の改善も図りながら取組の強化を図りたいと考えております。
13	佐野委員	【第5章 沖縄県内のSDGs活動状況】「おきなわSDGsパートナー登録制度」（p. 75-p. 76）及び「おきなわSDGs認証制度」（p. 76-p. 79）について、一旦、登録・認証した後の取組状況等のモニタリングは行っているのでしょうか？取組状況次第で、登録・認証の取消、といったことはあり得るのでしょうか？	「おきなわSDGsパートナー登録制度」、「おきなわSDGs認証制度」とともに、毎年活動状況報告を義務付けております。登録制度については活動実態がない場合、認証については申請時の取組内容から著しい逸脱があった場合は取り消しの対象となります。
14	佐野委員	全体として、実際の取組・活動は、特にプラットフォーム会員の取組事例を見ると、沖縄らしさ・沖縄ならではの、詰まったケースばかりであり、「変えていくべき」部分にも沖縄らしいアプローチで向き合っているのが素晴らしいと思いました。これらの具体的な取組の紹介と、数値等の指標で測ることが組み合わせ、SDGsの推進というのは、こういうことなんだ」と県民一人ひとりが実感できることが、さらなる推進の原動力になると思います。そのために、このモニタリング報告書が、基礎自治体や学校・教育機関、民間企業等で一読されることを期待しています。そのための仕掛け・工夫を、県（SDGs推進室が主体となりつつ、他の部局も巻き込みながら）において進めていただくこともお願いいたします。	県庁内や市町村、教育機関企業・団体等とモニタリング報告書を共有するとともに、連携してまいりたいと考えております。
15	平本委員	17のゴールごとのモニタリング結果については、全国標準との比較が記載されたことで、大変理解しやすくなりました。他方で、モニタリング報告書において、各指標の値が増加した方が良いのか、減少した方が良いのかが一目で判断しにくいです。そのため、望ましい方向性を＋で示した方が良いかと思います。また、表頭の全国水準という表現も誤解を招きやすいので、「全国水準との比較」等の表現に修正した方が良いかと思います。	指標の望ましい方向性の表記方法について、検討してまいります。 ご指摘のとおり「全国水準」を「全国水準との比較」と修正いたします。
16	平本委員	全国値との比較を目的としない沖縄県の地域特性を補完する「ローカル指標」を設定したのは非常に良いと思います。ただし、目標値あってこそその指標であり、全国水準との比較が出来ないのであれば、目標値と目標年度を明記しなくてはいけないと思います。	県としましては、アクションプランのモニタリングを中心に進めていきたいと考えております。17のゴールモニタリングにつきましては、選定した指標が変わると進捗状況の評価も変わることなどから、参考とする指標として設定しております。そのため、現時点では、目標値と目標年度の設定は考えておりません。

No	委員	ご意見 (モニタリング等に対してのご意見について)	事務局対応案
17	平本委員	モニタリングした結果を踏まえてどのような取り組みを行うのかを検討する際に参考となる「おきなわSDGs プラットフォーム」会員の取組事例が記載されているのは大変良いと思います。他方で、事例と優先課題の関係が分かりにくいので、各事例に記載されているSDGsの目標と同様に、12の優先課題に紐づいた取り組みなのか、紐づくのであればどの課題に紐づくのかを明記していただけると、より検討に使いやすくなると思われます。	12の優先課題の取り組みであることが分かるような表記を検討してまいります。
18	和田委員	「03-02_令和6年度モニタリング報告書案_別紙（第4章の1）」の「 $(\alpha-1)$ 年度値～現状値変化率（％）」につきまして、望ましい方向に動いたものに「+」、そうではない方向に動いたものに「-」をつけていच्छゃいます。その結果、上に記載している計算式と異なる結果となっています。左に評価があるので、変化率に関しては計算通りの数字を記載するのはいかがでしょうか。	視覚的に分かりやすくするため、指標の望ましい方向の場合は「+」そうでない場合は「-」を記載しております。表記方法について、今後、検討してまいります。
19	和田委員	（ジャストアイデアですので、もし可能であれば…）「03-03_令和6年度モニタリング報告書案_別紙（第4章の2）」につきまして、「03-02_令和6年度モニタリング報告書案_別紙（第4章の1）」の右側のグラフ等がわかりやすかったので、こちらにも活用されてはいかがかなと思いました。	別紙（第4章の2）のグラフにつきまして、今後、検討します。
20	和田委員	「03-03_令和6年度モニタリング報告書案_別紙（第4章の2）」p10 ④-28の達成度が1000%となっています。計算上は正しいですが、就業率が目標を2%pt上回っている状態ですので違和感があります。他の%を利用した目標にも同じ現象が発生していますので、目標値を%と置いているものは、%ptの差分にするなどの計算を適用できないでしょうか。また今後は既に目標値を上回った目標に対して、ネクストゴールを打ち立てる等の動きも求められると思います。	変化率の計算式に当てはめて記載しております。違和感のない書きぶりを検討します。目標値も上回った指標については、アクションプランの改定を踏まえ検討します。
21	和田委員	昨年度も議論になりましたが、この報告書はあくまで定量的に進捗を記録したものとなります。PDCAを回していくうえで、うまくいった目標とうまくいかなかった目標の背景の分析、現状を踏まえた来年度へのリコメンデーション、そもそも全体的に進捗は良いと言えるのか等の「分析・評価」に関する部分が求められると思います。ステークホルダー等によってそれらがなされるような仕組みがあればいいなと思いました。	モニタリング報告書は、県内のSDGsの状況を共有することが趣旨となっております。総括的な「分析・評価」につきましては、次年度のサマリーで実施していきたいと考えております。
22	島袋委員	全体的に見ると、非常によく整えられて良く作りこまれている印象。SDGs推進室の多大な努力に敬意を表します。特に17目標に関するモニタリングの制度設計は良いと思います。県の総合計画にあたる振興計画にこのレベルのPDCA、モニタリングが導入されてしかるべきと考えます。	ご意見ありがとうございます。
23	島袋委員	SDGsの推進にあたって、17目標の進捗状況や到達度は、人類共通の達成目標なので、これを先に出して示していること、すべての目標について全国の状況との比較によって、沖縄の状況がどのような位置づけにあるのか、良く分かるデザインになっていること、が良いと思います。	ご意見ありがとうございます。
24	島袋委員	問題は全国比較だと軒並み目標達成状況は良くないこと、にもかかわらずそれを改善するための沖縄SDGsアクションプランとなっていないこと、別物になっており、17目標の改善に必ずしも結び付けられていない感じが否めない。沖縄SDGsアクションプランのモニタリング指標がローカル指標中心で17目標モニタリングとはまったく別物となっているからなのか、何か腑に落ちない気がします。	モニタリング報告書は、今後、アクションプランで掲げる12の優先課題を前面に記載した形でとりまとめを考えております。
25	島袋委員	SDGsは、「人間の安全保障」（人間の尊厳の保障）を達成するためのPDCAであり、17目標のほとんどがすべての人の尊厳が守られているかどうかを分かりやすい目安で確認していくものになっており、それがモニタリングできているかが重要。それが達成されていない場合は、深刻に受け止めて批判する必要があると思うが、十分ではない。	分析、評価につきましては、次年度のサマリーで実施していきたいと考えております。

No	委員	ご意見 (モニタリング等に対してのご意見について)	事務局対応案
26	島袋委員	できていない具体的は事例を指摘するとすれば、目標1貧困の問題については、その深刻さが特に伝わってこない。「極めて深刻であり、より抜本的な対策が必要」と言うべきでは。まず、指標の一人当たりの生活保護費については、少なくなれば良いのか、という疑問がある。生活保護費の捕捉率が沖縄県は全国平均の半分以下であり、さらに捕捉率を下げれば、一人当たりの生活保護費はさらに下がってしまい、これで良い、ということになりはしないか。相対的貧困率の比率、とか、生活保護費の受給資格者の人口に占める割合とか、それを指標にすべきでは。	次年度のサマリーで分析・評価を実施し、アクションプランの改定を踏まえ、指標の見直しを考えております。